

海外研修助成事業による研修の成果

研 修 者 氏 名	谷合 信一
所 属 機 関	防衛医科大学校
<ul style="list-style-type: none"> ・研修に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	32nd World congress of the IALP
渡 航 期 間	自 令和5年8月19日 至 令和5年8月25日
<ul style="list-style-type: none"> ・研 修 内 容 ・国際学会・会議内容 	32nd World congress of the IALP での発表、および情報収集
<p>研修成果 (要約 : 800 字)</p> <p>International Association of Communication Sciences and Disorders (IALP) は、1924年に設立された世界のコミュニケーション障害に関わる医師や言語聴覚士 (言語病理学、聴覚医学) の団体である。学会は3年に1回世界各地で開催されており、今回は 32nd World congress of the IALP として、ニュージーランドのオークランドで令和5年8月20-24日に開催された。</p> <p>研修者は、Value of expiratory resistance training (EMST) as a preoperative exercise for laryngopharyngeal cancer patients with transoral videolaryngoscopic surgery (TOVS) (経口的咽喉頭部分切除術患者に対する術前呼気抵抗負荷トレーニングの効果) のタイトルでポスター発表を行った。本研究は、咽喉癌に対する経口的咽喉頭部分切除術 (transoral videolaryngoscopic surgery : TOVS) を受ける予定で、術後嚥下障害発生リスクの高い患者に対し術前に予防訓練を実施し、その効果を示した研究である。発表当日は質問に加えコメントとして、米国では広く用いられていること、臨床応用に向けては機器の費用負担が問題になること等の指摘を受けた。これらを通じて、非常に意味のある情報交換ができた。</p> <p>また本研究に関連する研究発表の聴講も行った。本研究で用いた EMST を睡眠時無呼吸症候群の患者に対して適応した米国からの研究であった。この研究では、4週間の訓練後に呼気筋力が向上していることは示されており、睡眠時無呼吸症候群に対して効果があったとしているが、生理学的なメカニズムがはっきり分かっておらず、今後の課題であると思われた。</p> <p>今回、海外研修助成を受けることができ、初めての国際学会での発表を行うことができた。海外の先進的な取り組みを知るとともに、自分たちの行っていることは世界の中で十分に通用することもよくわかった。さらに現在取り組んでいる研究を発展させ、がん患者さんの QOL 向上に少しでも貢献していきたい。</p>	